

会議録様式

審 議 会 名	平成29年度第1回杉戸町行政改革推進会議
開 催 日 時	平成29年6月28日（水）午後1時30分～午後3時05分
開 催 場 所	杉戸町役場第一庁舎3階会議室
会 議 の 議 題	<p>(1) 行政改革推進会議スケジュールについて</p> <p>(2) 重点改革項目実施計画の評価方法について</p> <p>(3) 平成28年度重点改革項目実施計画の事務事業評価 (外部評価) について</p>
公開・非公開の別	公開（傍聴者数 0人）
出席委員氏名	<p>(出席委員)</p> <p>坪田光治、鈴木聡、棚橋潤一、鈴木勲、藤城一巳、稲葉一美、大橋登喜夫、長谷部庫造、水野順子、田中康子、高橋善夫、熊谷文行</p> <p>(欠席委員)</p> <p>廣井慎一、大越佳代子</p>
審 議 の 概 要	1 審議事項
	・上記「会議の議題」のとおり。
	2 主な意見
	・別紙のとおり。
	3 審議結果
	<p>平成28年度重点改革項目実施計画の事務事業評価（外部評価）を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観や歴史資源を生かしたまちづくり ・記者発表の積極的な活用 <p>詳細は別紙のとおり</p>

【主な意見等】

(1) 平成29年度行政改革推進会議スケジュールについて

意見なし

(2) 平成29年度重点改革項目実施計画の評価方法について

意見なし

(3) 平成28年度重点改革項目実施計画の事務事業評価（外部評価）について

①「景観や歴史資源を生かしたまちづくり」質疑応答

質問1

(委員)

1点目は、「景観や歴史資源を生かしたまちづくり」について、「杉戸町の自然が豊か」とはどのようなことを指すのでしょうか。2点目に、歴史資源はどういったものがあるのでしょうか。また、3点目にまちづくりにおいて自治基本条例に基づく住民参加の手法をどのように検討されているのでしょうか。以上3点について教えてください。

(政策財政課)

まず、「景観や歴史資源を生かしたまちづくり」について、当町の自然は、大落古利根川、倉松川、江戸川等、「川」が非常に多いのが特徴です。併せて、田園風景が残っているということで、農業もさかんに行われております。

さらに、杉戸宿開宿400年プロジェクトにもありましてとおり、旧日光街道の沿道として栄えた町ということで、古い建物も残っており、これらを活用してまちづくりを進めております。

そういった中で、まちが持っている歴史文化資源、自然環境の資源を生かしてまちづくりを進めていくことで地域創生を図りたいというのが目的でございます。

当事業については、歴史的な資源を活用して行った事業についてご報告させていただいたところでございます。以上です。

(委員)

確かに河川や田園風景は残っていますが、河川の整備状況がまだ進んでいない気がしま

す。

それから、歴史資源につきまして、当町の伝統芸能等があれば教えてください。

あとは、まだ始まったばかりの自治基本条例に基づく住民参加の基本をもう少し拡大してほしいと思っております。

(政策財政課)

まず、河川等につきましてですが、いわゆるハード面での整備は今回の事業内容とは別で行政改革項目に上がっているところでございます。

当事業については、そういった自然環境・歴史資源等を活用して、杉戸町に少しでも人を呼びこみ、経済を活性化させたいという中で、流灯まつりの会場となる河川も魅力ある自然環境の一つということで位置付けております。

また、歴史資源については社会教育課より回答させていただきます。

(社会教育課)

私からお答えします。当事業に限った歴史資源といえば、杉戸宿の街並みだけではなく、町内の本陣に残されている古文書があり、六宿の中でも非常に貴重なものです。地元で歴史関係の書物や資源が残されているというのは極めてまれで、おそらく六宿では杉戸と栗橋のみとなっております。

商工観光課と商工会で開発した「たまごふわふわ」についても、もともとは本陣の宿泊帳に出てくるメニューでございます。また、要人が杉戸宿に宿泊したという記録も本陣文書に記録されています。このような歴史的なバックボーンがあって初めて「地域おこし」ができると思います。

伝統芸能については杉戸宿の関連とは別になりますが、茨島のお囃子や大塚の神楽がございまして、町指定の文化財となっております。しかし、後継者不足等もあり、現状は大塚の神楽は停滞してきているのが現状です。

(商工観光課)

400年宿場まつりの中でも、茨島と大塚のお囃子を披露していただいたところでございます。

また、自然環境につきましてですが、当事業とは別になりますが、現在、「川の再生プロジェクト」という事業がスタートしており、今後、古利根川等の景観を活用したまちづくりを進めていきたいと考えております。

(委員)

趣旨とは外れてしまいますが、要望としては伝統芸能を伝承していくことも観光・社会教育行政の一環なのではないかと感じております。そういったことにも着目していただきたいと思っております。以上です。

質問2

(委員)

六宿関連のシンポジウムを行いまして、私が司会を致しましたが、空席が多かった印象を受けました。シンポジウムなのかパネルディスカッションなのか統一したほうがよいのではないかと感じております。

また、PRが十分でなかったことも来場者が少なかった原因ではないでしょうか。郵便局等でもポスターやチラシの掲載をしてくれます。そういった町内施設を活用し、PR方法を工夫したほうがよいと思います。

また、杉戸宿のPRにより観光客が増えたことで経済効果がどのくらいあったのかについて教えてください。そこが評価されれば事業としてよくなっていくのではないかと思います。

(社会教育課)

私からお答えします。今後行う講演会ではPR方法等をより工夫し、杉戸宿の良さを知っていただけるよう努めてまいりたいと思います。

(商工観光課)

経済効果につきましてですが、平成28年度は4,200万円(全額国庫補助)ほどの予算を投入し、事業を行いました。算定式を元に積算したところ、最終的には1億3,000万円ほどの経済効果がありました。

質問3

(委員)

景観の歴史資源の中で古民家のお話がありましたが、現在誰も住んでいない古民家の維持管理についてはどのようになっているのでしょうか。また、角穀の前がごみの収集場所になっていると思いますが、他の場所にかえられないのでしょうか。

(社会教育課)

私からお答えします。杉戸町には数件古民家がありますが、残念ながら和風建築としての指定文化財にはなっていません。それぞれが個人所有のため、補助金を出すことや維持管理をするということは難しいのが現状です。

(商工観光課)

国でも古民家を観光資源として活用できないか研究を進めておりますので、そちらも参

考にしていきたいと思っております。

ごみ置き場につきましても検討は致しますが、地域で決めていることでもあるので、なかなか難しいところもございます。

質問4

(委員)

まち歩き参加者の実績が749名となっておりますが、年齢層やどこから来たのか、リピーターと新規の割合等について教えてください。

数字だけだと見えてこないなので、400年のイベントが終わった後何をすべきかの参考にしたいと思っております。

(商工観光課)

まち歩きの人数についてですが、まち歩きは平成26年度から実施しており、年々増えているところでございます。資料の749名は3年目の数字となっております。

まち歩きの参加者は、7割が町外（県内の他市町）の方が非常に多いと事務局より聞いております。まち歩きの後に必ずアンケート調査を行っておりますので、どこから来ているかというような分析をしながら事業を推進しております。今後、この数字が伸び悩むこともあると思いますが、同じルートだとリピーターの方も飽きてしまいますので、違うアプローチのまち歩き（ただ史跡を巡るだけではなくグルメ等の分野も盛り込む）を企画したり、西地区の高野台のほうまでまち歩きコースの範囲を広げることも検討しております。

今後も継続してリピーターを増やしていけるような取組をしていきたいと思っております。以上です。

②「記者発表の積極的な活用」質疑応答

質問1

(委員)

記者発表のときの手順（何をどこにどのように持っていくのか等）を教えてください。

(秘書広報課)

春日部市役所内に記者クラブがありますので、登録しているメディアにFAXやメールで情報を発信しています。紙媒体のみの場合は例外的に持ち込んでいます。

質問2

(委員)

記者発表を行ったことで、町に対してどのような効果があったのか教えてください。

(秘書広報課)

記者発表において効果検証はなかなかできていないのが現状でございますが、発表した件数については1つの指標として捉えております。掲載された記事については住民の方からお問い合わせをいただくこともあり、それも効果の1つではないかと思っております。以上です。

質問3

(委員)

シティプロモーション戦略について、もう少し分かりやすく教えてください。

(秘書広報課)

シティプロモーションの例と致しましては、今年度よりテレビ埼玉のデータ放送サービスに協力をさせていただきました。これは、テレビ埼玉より各自治体のイベント情報や災害情報等を視聴することができるもので、そういったメディアを活用しております。

また、今年の3月よりアグリパークゆめすぎとにタッチパネル式サイネージを設置し、町の観光やイベント情報を掲載し、発信しているところでございます。それ以外にも、杉戸町に興味をもってもらえるように、町のホームページ内に魅力情報を集約し、PRしていくことも検討しております。

(委員)

戦略を用いたときは戦術が伴います。組織体制とは「制度」の部分、実行段階においては「体制」の部分、これから何をする、どういうふうに行うかはこれらの区分がはっきりしていないと見えてこないのではないかと思います。そこを精査していただければと存じます。

質問4

(委員)

記者発表の中には素晴らしい取組もたくさんありますが、住民の目をひくものでないとなかなか取り上げられないのではないかと思います。若い方の中にはSNSの活用をしていて、そういった新しい考え方を取り入れてことも重要なのではないかと思います。例えば、新採職員に事業のPR方法を考えさせ、コンペで競わせる等、そのようなことでどん

どんよいアイデアが生まれてくるのではないかと思います。その中で出てくる失言等については、ベテランの方が推敲し、発信していくことも必要かと思ひます。

(政策財政課)

町長評価の中で、「プロモーションに対する各課の意識が低いと感じることから、プロモーション的文例集等を作成するなど、さらなる工夫をすること」とありますが、町長の考えを聞く中で、例えば、見出し1つにしても「杉戸幼稚園・保育園が完成しました」と言うよりは、「待機児童0！杉戸幼稚園・保育園」とキャッチフレーズを工夫したり、掲載された記事を各課で参考にしたりというように、積極的にPRしていくべきとの意見がありましたので、補足させていただきました。

以上